

新しい図書館って こんなに自由だ。

11月1日 狛江新図書館オープン



市民の目線で 狛江市政をお届け！

こまえをこまげる

こまちなNEWS

VOL. **96**

2026年11月発行

発行：狛江で分かりやすい政治を伝える・維新の会

狛江市岩戸北3-18-8-701

シリーズ  **これからの狛江を、考える。03**

旧狛江市民センター中央図書館分割で、昨秋オープンしたこまえみらいテラスの児童・図書コーナーに続き、いよいよ新図書館がオープン、これからの図書館像を考えてみます。 **KOMAE→**

新しい図書館の「自由」って何だ

2F

開放感という自由

窓際で本を読む。気になる一冊を探す。お気に入りの席で、思い思いの時間を過ごす。

狛江通りに面した大きなガラス面から差し込む柔らかい採光は、館内に落ち着いた環境をもたらします。



1F



1F



3F



本との出会いの自由

1階エントランスから入りすぐ左側スペースが、「アートイノベーションライブラリー」。

若い世代に向けたアート系図書が、表紙を見せる『面展示』で紹介されています。思いがけない一冊との出会いがあるはずです。

返却、貸出「手間」からの自由

図書の返却、貸出は並ぶ手間がなく、ストレスフリー。新設のIC予約機に図書カードをかざせば、予約棚に予約した図書の所在が示され、ピックアップできます。

また、返却には自動返却機、貸出には自動貸出機の利用で時間と手間が軽減されます。

「読みやすさ」の自由

「小さな文字が読みづらくなったけれど、本をもっと楽しんでみたい。」

そんなニーズに応える「大活字本」の展示コーナーが3階にお目見え。他にわかりやすい案内サイン等、様々な配慮がされています。

新図書館には児童書・絵本がないの？

令和7年11月オープン、こまえみらいテラス内には、児童書・絵本を中心とする「こまえみライブラリーkid's」と新聞・雑誌等の閲覧スペースがあります。

一方で、一般書は新図書館で開架展示されることになりました。

これら二施設は距離にして、およそ400メートルほど。児童書と一般書が分割されたことで、こまえみらいテラスでは親子が児童書や絵本にのびのびと親しみ、新聞や雑誌は広いスペースで閲覧できるようになりました。新図書館ではより静謐な環境で本（一般書）と向き合う時間が増えると思います。



こまえみライブラリー



新図書館（整備基本設計より）



館内、ところどころに設計者の遊びごころを発見できます。狛江市のマーク「こ」が壁面に隠れていたり、狛江にゆかりのある枝豆や古墳のカタチをしたテーブルなど。ぜひ、館内を回って探してみてください。



本離れが叫ばれる時代でも、本には無限の可能性があると思います。すべては本を身近に感じる工夫。ぎっしりと背表紙が並んだ本棚ではなくその側面には個性ある表紙で本と出会うレイアウトがなされています。

館内を見渡すと視覚サインはわかりやすく、採光を意識した空間が広がり、設計者のちょっとした遊びごころがあります。

「自由な発想で、いかに本との接点を作るか」、将来にわたって市民の皆様にも愛される図書館に必要な視点です。



完全無所属の
狛江市議会議員
三宅まこと